

高取町の教育

平成30年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

1 調査の概要について

○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 実施日：平成30年4月17日（火）

○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年（45名）、中学校第3学年（45名）

○ 調査事項及び手法

・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

・ 教科に対する調査〔国語、算数・数学、理科〕

それぞれ「主として『知識』に関する問題」を（A）、「主として『活用』に関する問題」を（B）として出題。

○ グラフの見方

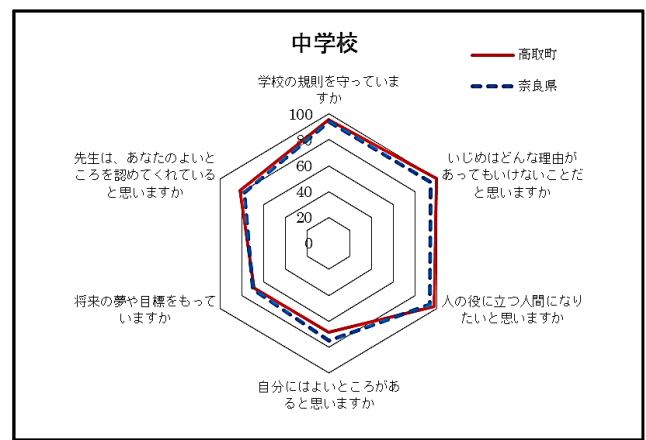
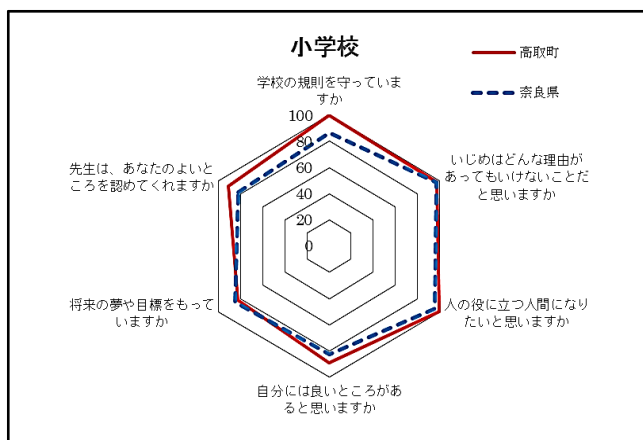
・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100%）です。

赤のグラフが青のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。

赤のグラフが青のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

2 調査結果について

○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）



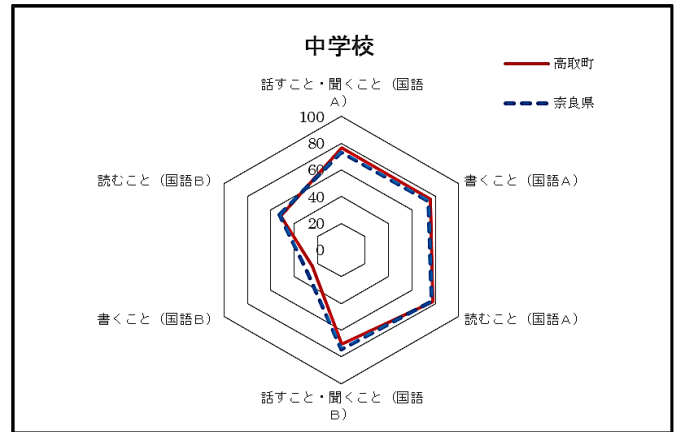
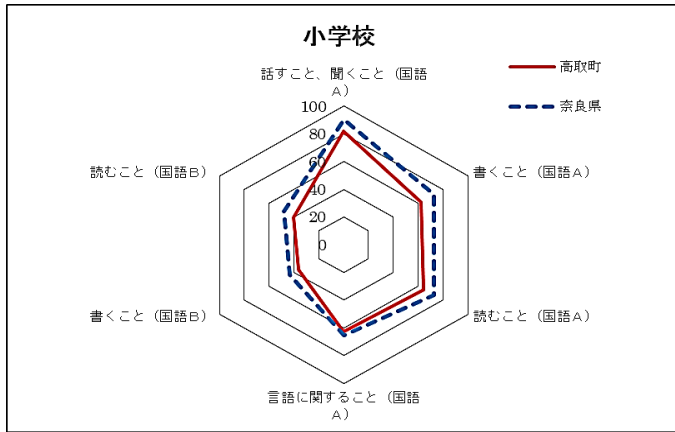
本町の児童・生徒のすがた

- ・ 小学校は、ほとんどの項目が県平均を上回り、学校生活を安心して楽しく送り、自己肯定感が高いと考えられます。特に「学校の規則を守っていますか」と「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」は、100%です。規範意識が高く、まじめに学校生活を送り、楽しく充実していると考えられます。
- ・ 中学校は、「学校の規則を守っていますか」など「規範意識」の項目において県平均を上回っています。一方「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の自己肯定感にかかわる項目においては、やや下回っています。様々な生活体験から、自己肯定感が芽生え、自己の将来の姿を想像できるよう意識をもつことが大切であると考えられます。
- ・ 小中学校とも、「学校の規則を守っていますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の規範意識に関する項目が県平均を上回っています。「学校での学び」、「保護者の励まし」、「地域の見守り」が良好であり、学校の規則を大切に、自己肯定感が育ち、落ち着いた生活を送っている姿が現れたものと考えられます。

○ 学力に関する調査

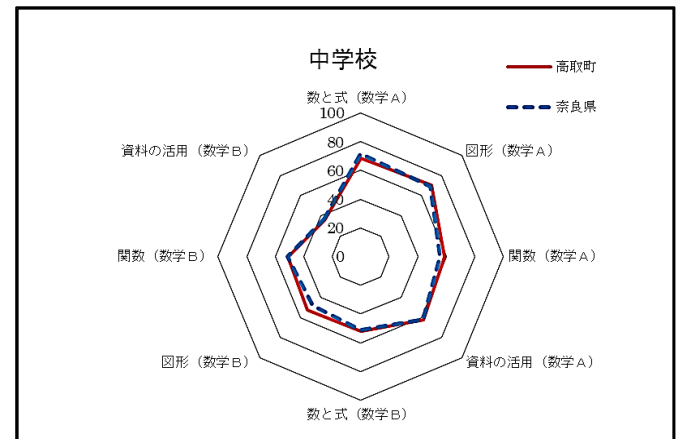
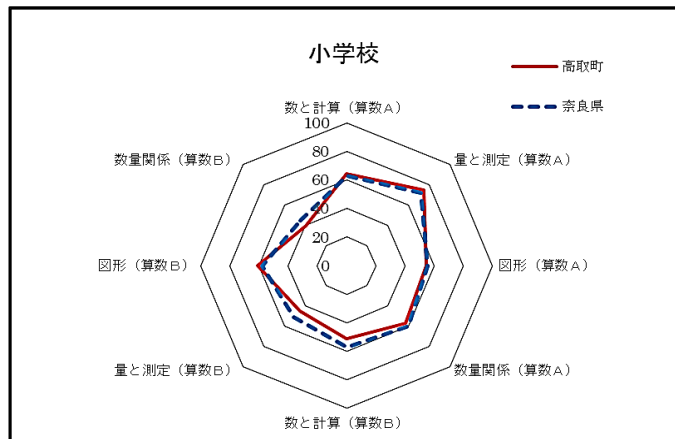
国語

国語



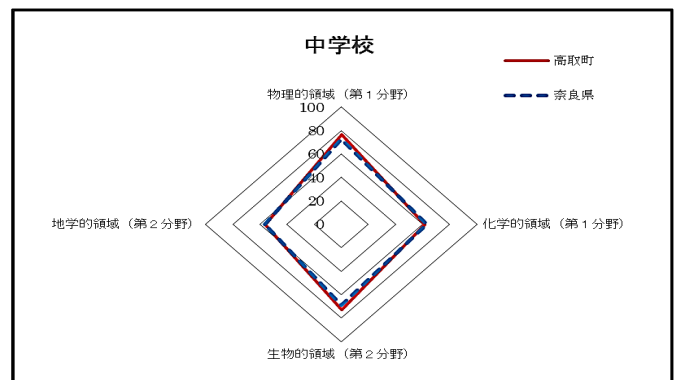
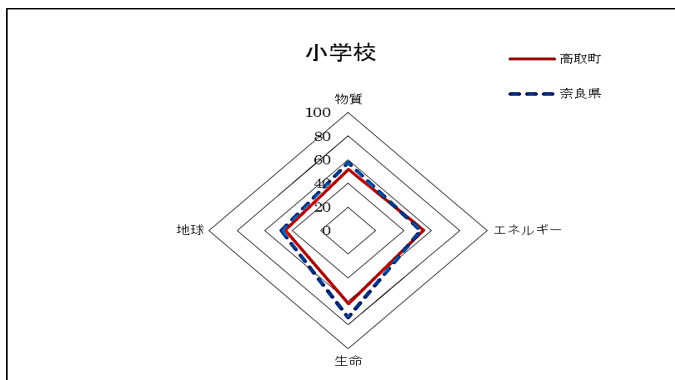
算数

数学



理科

理科



本町の児童・生徒のすがた

- 小学校の国語は、国語力に課題があると考えられます。特に、「読むこと」、「書くこと」の基礎的な技能については、課題があります。また、応用力においては、県平均に比べ、特に「読むこと」「書くこと」がやや弱いと考えられます。
- 小学校の算数は、「数と計算」、「量と測定」等の基礎・基本的な知識技能については県平均と同等または上回っている項目がみられます。応用力では図形（算数B）以外の分野で課題があると考えられます。根拠に基づいて答えを導く力を高めることが今後求められています。
- 小学校の理科は、「エネルギー」については、県平均を上回っていますが、他の分野では県平均に比べ弱いと考えられます。特に「生命」の分野では課題があると考えられます。
- 中学校の国語は、基礎・基本的な知識の項目について、県平均を上回っています。「知識の活用」、その中でも「書くこと」においては少し弱い傾向がみられます。
- 中学校の数学は、「知識」「活用」全般にわたり県平均と同水準もしくはやや上回っていると考えられます。
- 中学校の理科は、「生物的領域」の項目において県平均を上回っていますが、「化学的領域」と「地学的領域」の項目において県平均をやや下回っています。
- 小中学校とも、総合的に基礎的な知識を基にした応用力をさらに伸ばすことが大切であると考えます。各教科及び日常生活の中で応用力を生かした発展的な力をつけていく必要があると考えられます。

3 課題に対する改善方法

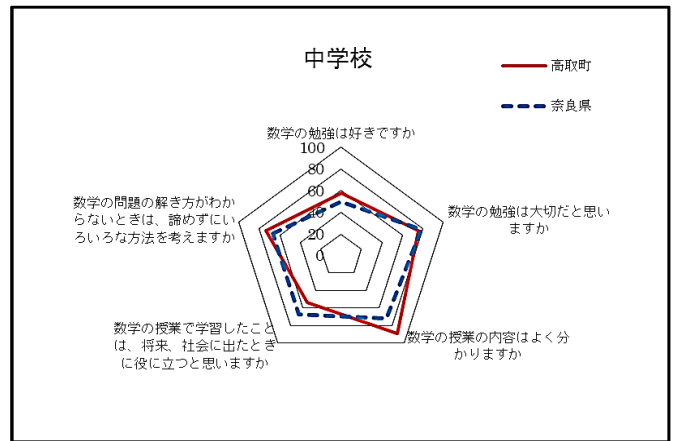
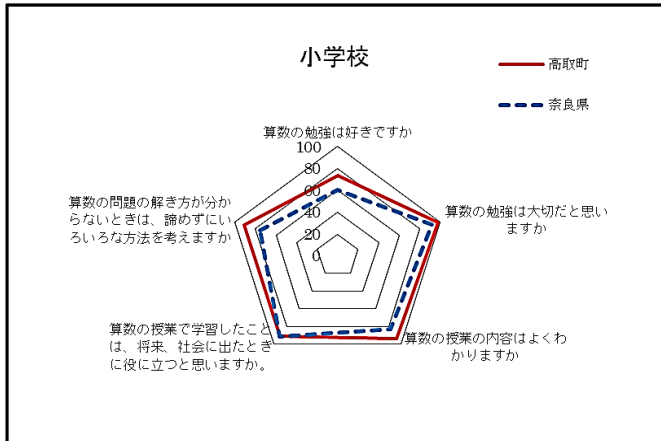
- 小学校は、基礎・基本的な知識技能の向上を図るため、継続して「朝学習」に今まで以上に取り組みます。また、本年度は理科の調査があり、調査結果をもとにさらに自然の中で過ごす体験活動や自然観察を行う場面を多く授業に取り入れるように努めていきます。
- 小学校は、学校行事等で今まで以上に友だちや地域の人々とかかわりをもつ場面を増やし、その意義や楽しさを理解し互いを認め合うことのできる環境の中で将来の夢や目標をもてるように努めていきます。今後、一人ひとりをさらに伸ばしていくため、学校生活の様々な活動を通じ、自分のいいところが見つけられるよう努めていきます。
- 中学校は、学習面では国語・数学・理科ともに基礎的な知識があるものの、それらを活用し、深めていく力がやや弱いように考えられます。特に国語では「書くこと」の力を高めるため、作文などの文章を自ら作成する機会を増やし、朝読書で感想を書くなどの工夫を進めていきます。また、主体的な言語活動を念頭に国語の授業はもとより、全ての教育活動の中でコミュニケーション能力の向上にさらに努めていきます。そのためにも、教職員も研修を積み、授業の創意工夫をし、「よりわかりやすい質の高い授業」を目指していきます。
- 中学校は、生活面では「学校の規則を守っていますか」など規範意識について県平均を上回っています。一方、「自分には、良いところがありますか」については、県平均を下回っています。学校の様々な活動の中で、生徒の様子をきめ細かに観察することで、生徒一人ひとりの長所を見出し、前向きな言葉がけを意識しながら、集団の中でお互いを認め合える雰囲気づくりに努めます。生徒たちが新たな目標に向かっていく意欲を高める環境づくりを目指していきます。
- 小中学校とも、基礎的な知識をなかまに対してどのように伝えていくかが課題であると考えられます。仲間とかかわる時間を増やすため、グループ活動を取り入れ、話し合い活動を深め、相手に自分のまとめた考えを伝え、表現する力を高めていきます。

参考資料

○ 学習状況に関する調査（抜粋）

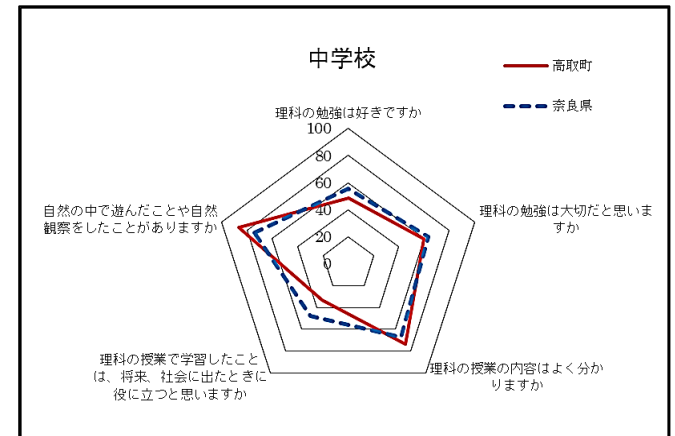
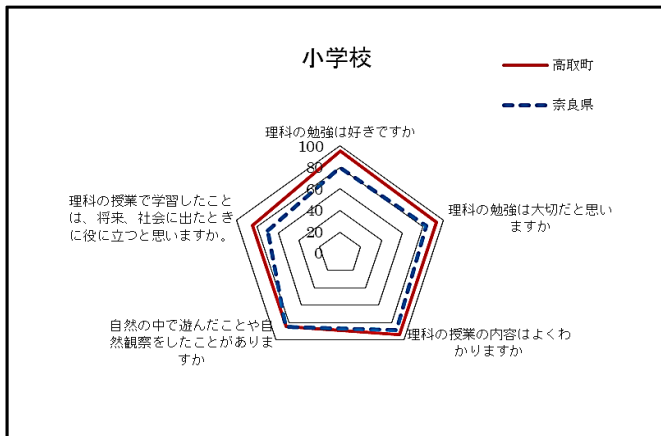
算数

数学



理科

理科



本町の児童・生徒のすがた

- ・ 小学校は、学習に関する調査では、全ての項目が県平均より高くなっています。児童が、学習に対して興味・関心をもってまじめに取り組んでいると考えられます。
- ・ 中学校は、落ち着いた環境で学習に取り組んでいます。一定の基礎的な知識は、身につけていますが、数学、理科ともに「学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問に対して「役に立つと思えない」の回答が多い傾向にあります。